

学習評価の改善に関する考え方のポイント（イメージ案・たたき台）

「目標に準拠した評価」を、資質・能力の育成の観点から実質化していくため、以下のような方向性に基づき各教科等でご検討いただきたい。

各教科等の目標を、資質・能力の三つの柱に基づき構造化すること。

各教科等の本質に根ざした見方・考え方について、明確化すること。

指導内容についても、資質・能力の三つの柱に基づきどのような力を育成するのかが明確となるような構造化を図ること。

別添イメージを踏まえつつ、観点別評価の観点を検討すること。

観点別評価については、毎回の授業で全てを見取るのではなく、カリキュラム・マネジメントの考え方のもと、単元（題材）を通じたまとまりの中で、学習・指導内容と評価の場面を適切にデザインしていくことが重要であることに留意すること。各教科等で検討いただいている学習プロセスの在り方の中で、評価の場面との関係性も明確にできるよう工夫すること（検討の視点を一体的に見取ることも考えられる）。

資質・能力の三つの柱のうち、「知識・技能」における知識については、事実的な知識のみならず、構造化された概念的な知識の獲得に向かうことが重要であることに留意すること。各教科等の特性や発達の段階に応じて、どのような知識・技能を獲得することが求められるのかを明確にできるよう工夫すること。

「学びに向かう力・人間性」については、「主体的に学習に取り組む態度」として観点別評価（学習状況を分析的に捉える）を通じて見取ることができる部分と、観点別評価や評定にはなじまず、こうした評価では示しきれないことから個人内評価（一人一人のよい点や可能性、進歩の状況について評価する）を通じて見取る部分があることに留意すること。「主体的に学習に取り組む態度」については、学習前の診断的評価のみで判断したり、挙手の回数やノートの取り方などの形式的な活動で評価したりするのではなく、知識・技能を獲得しようたり、思考・判断・表現しようたりしているかどうかを評価するため、子供が学習の見通しを持ち学習したことを振り返る場面を適切に設定することが必要であること。

資質・能力の三つの柱は、それぞれが相互に関係し合いながら育成されることを、明確にしていくことが重要であるので、総則などで示していく方向で、総則・評価特別部会で引き続き検討していくこと。

現行の観点別評価の観点において、別添イメージ記載の観点のうち示していないものがある教科等については、知識や技能の在り方、技能と表現との関係等について、各教科等の本質に照らしてご検討いただき、相互に関係するものであることを前提としつつ、観点を明確にする方向性でご検討いただきたいこと。

上記の方向性を踏まえた指導要録の在り方について、引き続き専門的に検討していくこと。また、指導要録に加えて、子供一人一人が、自らの学習状況やキャリア実現を見通し振り返ることができるようにするために仕組みの在り方を検討していくこと。

学習評価に関する残された論点については、各教科等WGにおける議論の状況を踏まえつつ、総則・評価特別部会において引き続き検討していくこと。

各教科等の評価の観点のイメージ（案）

<p style="text-align: center;">観点（例）</p> <p style="text-align: center;">実際に設定する各教科の観点は、教科 の特性に対応して検討</p>	<p style="text-align: center;">知識・技能</p>	<p style="text-align: center;">思考・判断・表現</p>	<p style="text-align: center;">主体的に学習に取り組む態度</p>
<p style="text-align: center;">各観点の趣旨の イメージ（例）</p> <p style="text-align: center;">実際の記述は、各教科の特性、 目標の示し方に合わせて検討</p>	<p>（例）</p> <p style="text-align: center;">を理解している / の知 識を身に付けている することができる / の技 能を身に付けている</p>	<p>（例）</p> <p style="text-align: center;">教科の本質的に根ざした見方や考え方 を用いて探究することを通じて、考えた り判断したり表現したりしている</p>	<p>（例）</p> <p style="text-align: center;">主体的に知識・技能を身に付けたり、 思考・判断・表現をしようとしていたりして いる</p>